

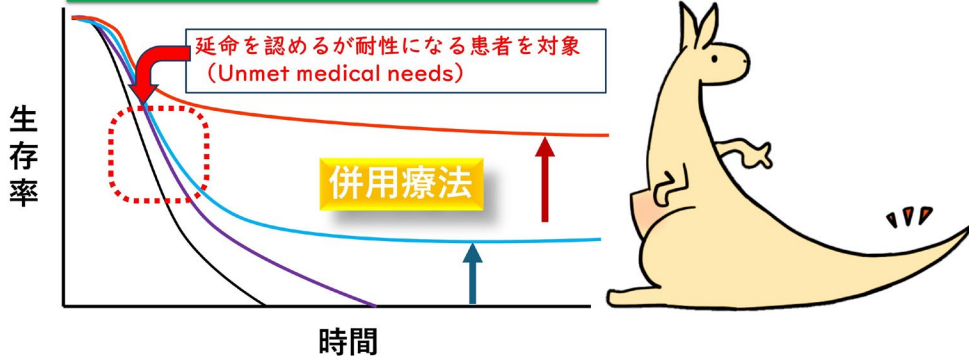


「第5のがん治療法の確立を目指して」 ～再生医療（間葉系幹細胞）を用いた医師主導治験～

現在、がん治療は、外科治療・放射線治療・化学療法・免疫療法の4大治療が行われております。これまで治らなかったStage 4のがん患者さんでさえ治る時代がやってきましたが、それでも完治が見込めるのは20%程度の患者さんに留まり、新規のがん治療法が世界的に求められています。

完治を目指す併用療法

カンガルーテールを押し上げる



再生医療は、治療困難であるUnmet Medical Needsの高い疾患への有効な治療方法が提供できる医療として期待されており、がんに対しては、その有効性にはまだ結論に至っていないのが現状です。

この医師主導治験は、免疫チェックポイント阻害薬が無効になった患者さんに再生医療である**間葉系幹細胞**を用いる事で、免疫チェックポイント阻害薬の耐性を解除し、再活性化させるという、世界で初めて“再生医療を活用したがん治療法の確立”の試みとなります。



昭和大学病院腫瘍内科
主任教授 角田卓也



昭和大学臨床薬理研究所
臨床腫瘍診断学部門
教授 和田 聡

本件に関する問い合わせ先：

昭和大学医学部 内科学講座腫瘍内科学部門

(担当：澤 玲子)

TEL&FAX: 03-3784-8661

E-mail: reikosawa@cnt.showa-u.ac.jp

〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8

